

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	673000618
法人名	合資会社 すぎやま
事業所名	グループホーム やまぼうし
訪問調査日	平成 20 年 7 月 24 日
評価確定日	平成 20 年 9 月 3 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	673000618		
法人名	合資会社 すぎやま		
事業所名	グループホーム やまぼうし		
所在地 (電話番号)	山形県鶴岡市羽黒町荒川谷地堰42-1 (電話) 0235-78-0610		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成20年7月24日	評価確定日	平成20年9月3日

【情報提供票より】(平成20年6月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 8 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 4.9 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造1階建GL銅板葺き 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,400 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/○無
食材料費	朝食	230 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 120 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(6月20日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名
要介護3	5 名	要介護4	5 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 77 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐藤医院、毛呂歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣にある多くの公共施設に散歩や遊びに出かけたり、消防署職員に避難訓練に毎回参加してもらうなど、地域の社会資源を利用者のために大変よく活用しているホームです。
幼稚園児からお年寄りまで、招待されたり訪問してもらったりしながら、また、町内会にも入って地域とのつながりを深めながら、地域の一員としての生活を送ることができています。
施設長が看護師でもあり、入居時から重度化や終末期についてもかかりつけ医と相談し、方針を共有しながら対応されているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はありません。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者や職員は評価の意義を理解し、自己評価や外部評価で出てきた課題はすぐに話し合い、改善の取り組みを行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	市役所、社協、民生委員2名、介護相談員、家族が出席して2ヶ月毎に開催している。ホームの活動報告や地域の状況等について話し合いを行っている。また参加できなかった家族には会議の記録を送付している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時に気軽に意見等を出せるよう努めており、家族の意見や感想等はミーティング時に話し合い、運営に反映できるようにしている。また、ホームの玄関にはポストも設置して意見や苦情を表明できるように工夫している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域で行われる各種行事や敬老会に参加したり、地元の幼稚園行事にも招待されたり、地域の子供御輿もホームまで来てくれる。また、町内会にも入っており、共同草刈り作業等にも出ている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で住民の方々と交わりながら、その人らしく暮らすことを大切にするための理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関と事務室に理念を掲示し、管理者と職員は毎日のミーティング時に唱和をしながら、共有と実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われる各種行事や敬老会に参加したり、地域の幼稚園行事にも招待されたり、地域の子供御輿もホームまで来てくれる。また、町内会にも入っており、共同草刈り作業等にも出ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価の意義を理解し、自己評価や外部評価で出てきた課題はすぐに話し合い、改善の取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所、社協、民生委員2名、介護相談員、家族が出席して2ヶ月毎に開催している。ホームの活動報告や地域の状況等について話し合いを行っている。また参加できなかった家族には会議の記録を送付している。		

山形県 グループホームやまぼうし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市庁舎が近いこともあり、何かあると直ぐに出向き相談したり話し合うようにして連携に努めており、市庁舎からも職員が気軽にホームに来てくれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「今月の様子」に担当職員が利用者の生活状況や健康状態を記入し、写真等とともに毎月送付している。また、金銭については、一人ずつ小遣い帳に記載して家族に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に気軽に意見等を出せるよう努めており、家族の意見や感想等はミーティング時に話し合い、運営に反映できるようにしている。また、ホームの玄関にはポストも設置して意見や苦情を表明できるように工夫している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者一人ひとりの特徴をまとめた記録を作成している。また、職員の異動等がある場合は利用者の記録を活用しながら職員の引継ぎにも時間をかけており、影響ができるだけ少なくなるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は年間研修計画を作成し、研修費や勤務を調整しながら、計画的に職員の資質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が年4回程主催する認知症対応型共同生活介護事業者部会や庄内グループホーム協会に参加して、同業者との意見交換や交流、電話での確認なども行いながら質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に過ごしながらか炊事や洗濯、畑仕事等を行い、これまでの経験からそれぞれのやり方や地域での違いを教えてもらいながら、共に支えあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の自宅訪問時や入居後も、本人や家族に希望や生活状況を聞きながら意向の把握に努めており、入居前に近い環境で生活できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を大切にしており、在宅からの入居の場合は必要に応じて民生委員やケアマネ等の関係者も参加して担当者会議を開催しており、それらを反映させて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に内容の確認を行い、変更が無くても介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、状態に変化が見られた場合は関係者と話し合いながら、随時、変更や追加を行いながら現状に即した内容にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	利用者の希望を確認しながら、必要な医療が受けられ るようにそれぞれのかかりつけ医との関係を築いてお り、家族の都合が悪い時は職員の付添で通院してい る。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化対応指針を作成して、入居時に重度化した場 合について話し合い、かかりつけ医とも相談しながら同 意をもらっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	利用者の方々を人生の大先輩として尊重し、プライバ シーや言葉かけに注意しており、記録等の個人情報も 取り扱いを限定しながら対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、入居前の生活を大切にしながら 個人のリズムや、その日のペースに合わせて支援して いる。		

山形県 グループホームやまぼうし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に応じた食事形態にして、楽しく安全に食事が取れるように支援している。また、調理や配膳、後片付けもできることや好みに応じて職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望により入浴できるようにしており、その日の体調や状態を確認したり、タイミングを図りながら入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中でこれまでの経験や生活歴を活かし、畑仕事や縫い物、食事の準備等により、役割や楽しみを見いだせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天気や体調に合わせて、近くの公共施設に散歩に行ったり、買い物やドライブに車で出かけたり、ホームの前庭の芝生でお茶を飲んだりしながら、ホームの中だけで過ごさないように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	運営者や職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関や窓は施錠しないで見守りを行っている。また、外に出る利用者には職員が付き添いながら、安全に過ごせるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署職員に参加してもらいながら、年2回の避難訓練を実施しており、地域の中に避難先も確保している。また、地域の消防団も定期的に回ってきて連携を取っている。		

山形県 グループホームやまぼうし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーについては協力医の指導を目安とし、個人の嗜好や体調に応じて内容も調整しながら、水分量や食事量を把握して個別に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるように自然の光や風を十分に活かしながら、居心地よく過ごせるよう工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みは自由で、本人や家族と相談しながら馴染みの物を置けるようにしているが、本人の安全面に配慮した片付けも行われている。		